大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

好投手多数で見応え

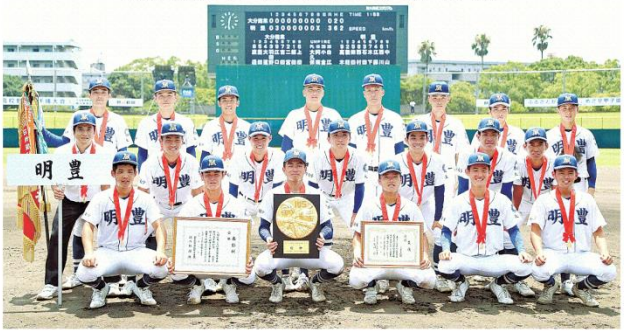
第105回 全国高校野球 大分大会

大会評

コールド、昨年比２減

部員不足には課題も

優勝した明豊ナイン＝別大興産スタジアム、撮影・山戸孝哉



夏の甲子園出場を懸けた43校の熱戦は、明豊の優勝で幕を閉じた。好投手を擁するチームが多く、引き締まった試合が多かった。

優勝した明豊はチーム打率が3割7分6厘で、勝負強い打撃が光った。準々決勝まで毎試合2桁安打を放ち、準決勝、決勝は少ない好機を生かして得点を挙げた。投手陣も中山、森山のダブルエースを軸に安定していた。

準優勝の大分商はセンバツを経験して投打でレベルアップ。名門らしく攻守に手堅い野球で勝ち上がり、頂点まであと一歩に迫った。

ベスト4で敗れた舞鶴と大分も健闘した。舞鶴は春の九州地区大会準優勝校らしく、勝負強さを発揮。準決勝は明豊を終盤まで追い詰めた。大分は3投手を軸とした堅い守りと機動力で、7年ぶりに4強入りした。

準々決勝で涙をのんだ4校の戦いぶりも素晴らしかった。鶴崎工は3回戦で九回サヨナラ勝ちを収めるなど粘り強かった。国際情報は投手を中心とした守りの野球で創部以来初の8強入り。柳ケ浦はノーシードから勝ち上がり、津久見も持ち味を発揮した。

全42試合中、コールドは12試合と昨年より2試合減った。1点差は6試合だったが、終盤まで目の離せない戦いが多かった。

1回戦の大分東―高専は降雨のため、夏の大分大会で初の継続試合が採用された。ただ順延となったのは1日のみで、おおむね天候に恵まれた。

部員が20人に満たない学校が多く目を引いた。3年生が引退すると単独で出場できないチームが4校ある（休部中の三隈除く）。少子化の影響に加え、新型コロナウイルス禍で競技を離れた生徒も少なくないという。部員不足は全国的な課題で、競技人口の増加に向けて関係者の一層の努力が求められそうだ。

明豊は大分大会で敗れたチームの思いも背負って甲子園で存分に力を発揮してほしい。（八坂啓佑）

明豊３―０大分商

明豊 12 2 豊府 4 2 竹田 15 1 豊南 8 3 宇佐産 6 2 藤蔭 5 10 鶴崎工 13 0 玖珠美山 4 3 鶴城 9 1 安心院 2 7 鶴崎 2 1 舞鶴 9 2 情報科学 3 1 大分南 4 0 臼杵 4 2 鶴見丘 9 2 国際情報 1 0 翔青 6 8 大分西 9 3 中津南 7 3 大分東 2 1 高専

大分商 8 1 杵築 10 0 三重総合 14 4 日田 4 11 上野丘 4 1 高田 0 1 柳ケ浦 3 2 宇佐 9 0 文理大付 4 8 国東 5 1 楊志館 3 0 津久見 11 2 中津北 2 7 日出総 6 0 日田林工 9 4 大分工 1 3 大分工 9 1 雄城台 2 4 中津 5 1 中津東 0 6 由布 東 明

は第１シード、　は第２シード、　は第３シード

大分合同新聞 2023年7月28日(金) 朝刊 19面

〔問①〕ベスト８に残った高校を挙げよ。ノーシードから勝ち上がった高校は？

〔問②〕野球人口の減少の要因を考えたり、調べたりしよう。

〔問③〕増加に向けて、どのような方策が有効か考えよう。

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。